

インターバンクの声（2015 年 11 月 24 日）

勤労感謝の日による祝日で東京市場が休場となったアジア時間だったが、21日に米サンフランシスコ連銀ウィリアムズ総裁が、「米経済統計が失望を誘うような結果にならない限り、米連邦準備理事会（FRB）が来月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げする“強い根拠”がある」との見方を示したことで、ドル円は123円台前半に押し上げられた。もっとも、欧米市場に渡ると米中古住宅販売が市場予想を下回り、米国債への需要が高まったことから金利が低下、ドル円も122円台後半に戻ってしまい、やはり本格的な相場の変化には米雇用統計の発表を待つ必要があるのかも知れない。また、今週の木曜日は米国がサンクスギビング（感謝祭）のためお休みとなり、例の如く27日も休暇にして4連休を目論む市場関係者も多く、市場の流動性も減少中だ。米国勢の一部は既にクリスマス休暇モードに入っていたりするが、この流動性の低下と集中力の欠如が市場にとっては曲者になるので要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。